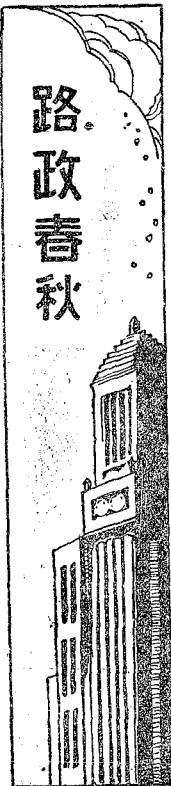


路政春秋



省營バスは交通上の

特異性をもつか

前田鐵相は最近大阪鐵道局懇談會席上に於て「國鐵の特異性」なる術語(?)を用ゐて居らるるが私營鐵道には特異性がなく獨り國鐵のみに特異性があるとは如何なる意義のものにや、鐵道が國營に移されたる當時の所謂國有鐵道政策を必要とする點に在るであらうか、國防上、産業開發上、交通機關統制上等から觀察し更らに財政上の見地から斷行したる國鐵政策を以て其の特異性と謂ふのであらうか、夫れならば一應首肯される、だが國鐵赤字補填策として事業經營上の困難を克服すべく案出された省營バ

スを鐵道と同様な特異性あるものとして都市の交通事業調整に阻止を與へ無意義な都市交通事業調整たらしむるに至らしめては甚だ遺憾千萬である。國內總親和舉國民一體を要求せられて居る此時局下に於て之れが妥當なる態度であらうか。絶對的でなく相對的特異性の爲めに國策の遂行を停頓せしめてはならない敢て鐵相の熱慮を望まざるを得ない。

道路の改良は時代に即して

明治時代の中頃我邦の文化は急激に開發せられ一にも英米、二にも獨佛と萬事萬端歐米追隨主義を以て馳驅したが獨り道路の

注意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯部に任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

みはわらじと下駄と人力車の往來に供する爲めの交通設備と思はれた、然るに先覺者の一部では道路設備の急務なるを看取し之が實現に邁進し努力した、栃木縣の三島縣令の如き高知縣の田邊縣令の如きは其の代表的地方官であつた、當時の一般國民は道路觀念が極めて幼稚で世の先覺者を以て任する政黨人ですら道路の改良は一の贅澤な設備經營と見たので大々的に反對したものだ、高知縣に於ての四國循環道路の一部としての田邊縣令の目論まれた設計の如き今日を以て視れば狹隘極まる輻員と粗笨な工法とで築造せられたものだが若し夫れですらなかりしならば現時徳島よりの陸運は如何であらうか。實に田邊縣令の功績は甚大

であると謂はなければならぬ、時代遅れは禁物である。和田重辰氏の「自動車國道の意義」を一讀した丈けでも思半ばに過ぐるものがある。時代に取り残れて無用の長物視されては如何なる功勞も夢化せられる、刮目して時代を透視することが閉却されてはならぬ。筆者は過年技術者の反對を省みず東京市内電車軌道のセンターポール撤去を叫んだ、幸に撤去せられたか今追懐しても戦慄を禁じ得ない、又電車架空線の複線化を單線化することも或る方面の反對を受けた、電車の第一フェンダーの撤廢にも監督官の峻拒に逢ふたのである。思へば時代は變遷したものである。

地中の秘佛足を伸ばして十三里

「つまこもる矢野の神山つゆしもににはひそめたりちらまをしくも」と萬葉歌人をして歌はしめた矢野の神山金山出石寺の由來

を開けば人皇四十四代元正天皇の御宇にこの山で千手觀音、地藏尊の靈像が自然に出現したとのあらたかな傳説により建立せられたが、その後淨土法大師が四國靈場遍歴のとき登山してかゝる靈像が末世不信の輩の潰すところとなり冥罰をかうむらんことを恐れて二佛を地下に封じてしまつたので誰も見たことがないさうだ、閉口したのは觀音様と地藏菩薩で、あるとき退窟のあまりうんと欠伸して足を踏張つたのが十三里の三崎半島になつたといふ、朝鮮鐘による藤堂高虎の軍功など偲ばれて思ひ出された古歌一首「梓弓矢野の神山春かけて霞は空にたなびきにけり」

あるかなきかの珍聞

奇譚(82)

○瀧壺から現はれ出でたる蛇體石像、山梨縣甲斐の國靈峰身延山七面山の急坂五十町を登りつめた頂上近い澤の奥深く「ゴー

」と響く遠雷の如き音が參拜者の耳朵を打つがこれは七面山の地から滲出した靈水が瀧となつて落ちる響だ、此の瀧は七つ折になつてゐるが人跡を遠く離れた幽邃な地故誰一人修行の瀧とする者がなかつたが其の瀧壺から釋尊の坐像に七廻半卷いた蛇の古き石像が発見された今こそ足跡を絶つた七面瀧に昔これを奉安した修行者があつたかと今更の如く發見者の若き僧内藤靈水氏は物語つた。

遠く近く爆音しきり雲の峯
火柱の湖心に立ちしはたゝ神
雷去つて天津橋上晴るゝ月

紅朗